

全般 1 か月予報

(10月2日から11月1日までの天候見通し)

平成22年10月1日
気象庁 地球環境・海洋部発表

<特に注意を要する事項>

北日本では1週目から2週目にかけて、東・西日本では2週目は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

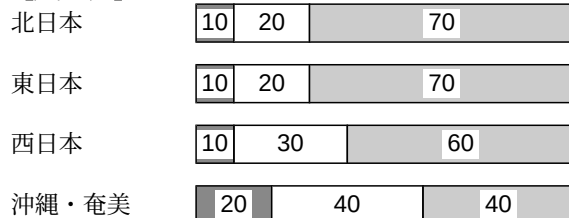
天気は、数日の周期で変わるでしょう。北・東・西日本太平洋側では平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、北日本と東日本で高い確率が70%、西日本で高い確率が60%、沖縄・奄美で平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、北日本太平洋側と東日本太平洋側と西日本太平洋側で多い確率が50%です。日照時間は、北日本太平洋側と東日本太平洋側と西日本太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

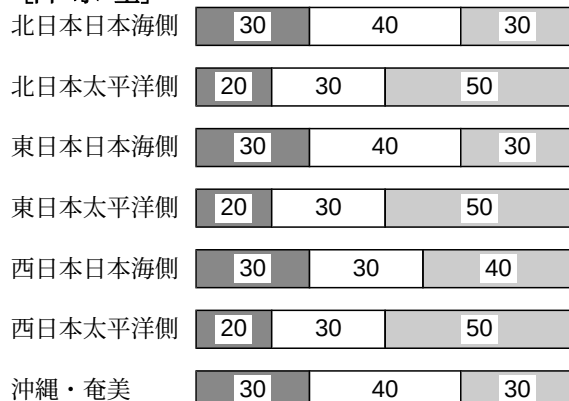
週別の気温は、1週目は、北日本で高い確率が70%、東日本で高い確率が60%、西日本で高い確率が50%、沖縄・奄美で平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、北日本と東日本と西日本で高い確率が70%、沖縄・奄美で平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、北日本と東日本と西日本で高い確率が50%、沖縄・奄美で平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

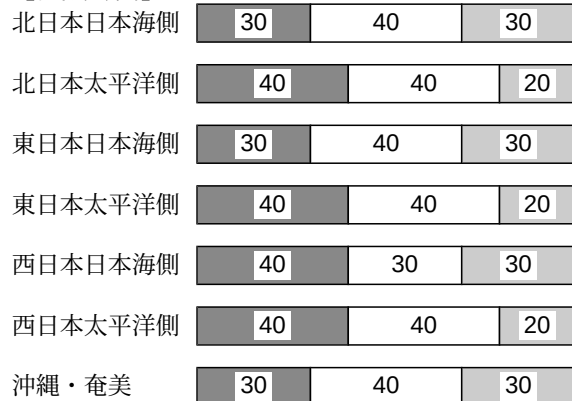
〔気 温〕



〔降 水 量〕

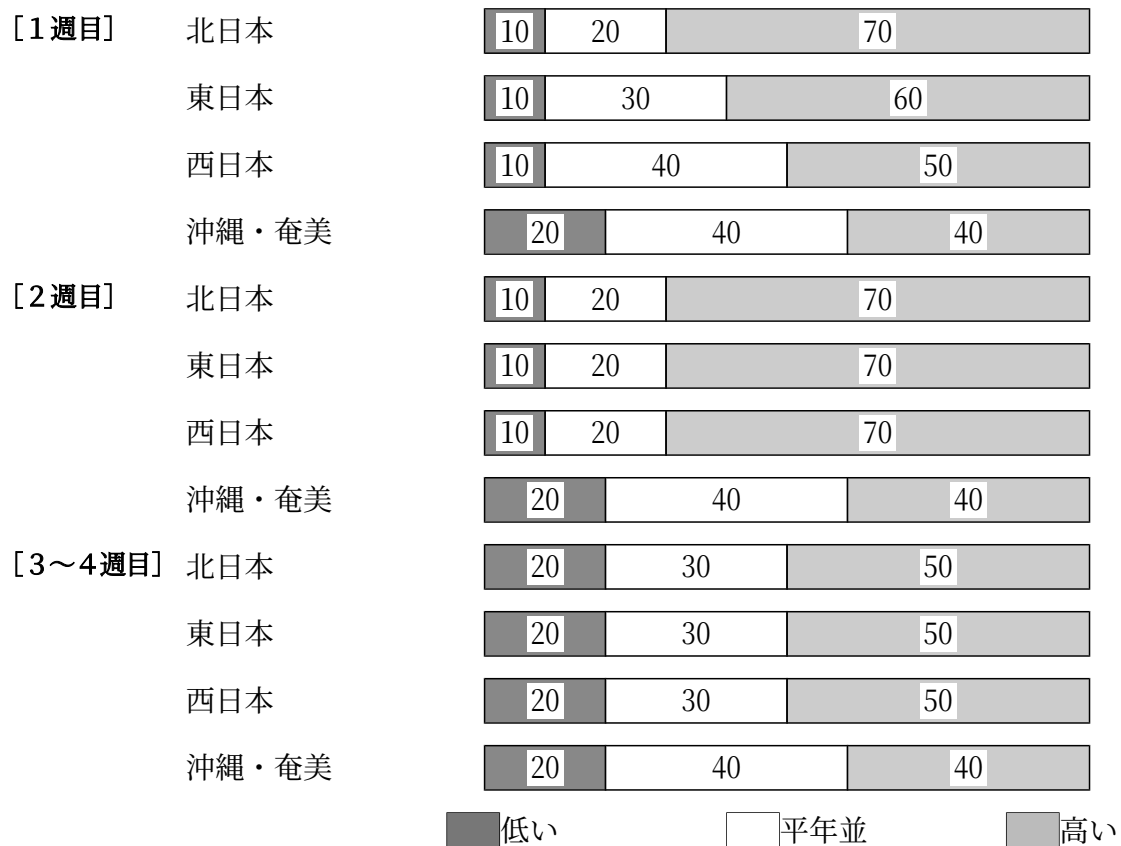


〔日照時間〕



低い(少ない)
 平年並
 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率（％）>



<予報の対象期間>

1か月 : 10月 2日(土)～11月 1日(月)
 1週目 : 10月 2日(土)～10月 8日(金)
 2週目 : 10月 9日(土)～10月15日(金)
 3～4週目 : 10月16日(土)～10月29日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は10月8日
 3か月予報：10月25日(月) 14時

＜参考資料（平年並の範囲）＞

（１）1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)		降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
北日本	-0.5～+0.3	日本海側 太平洋側	92～110 79～110	95～104 97～104
東日本	-0.5～+0.2	日本海側 太平洋側	86～110 75～113	92～105 94～107
西日本	-0.4～+0.3	日本海側 太平洋側	68～122 70～110	94～104 93～106
沖縄・奄美	-0.4～+0.2		65～109	92～106

（２）この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
北日本	-0.5～+0.5	-0.6～+0.6	-0.5～+0.3
東日本	-0.6～+0.4	-0.7～+0.4	-0.4～+0.4
西日本	-0.6～+0.4	-0.7～+0.4	-0.4～+0.4
沖縄・奄美	-0.2～+0.3	-0.4～+0.4	-0.6～+0.4

＜参考資料（利用上の注意）＞

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10％以下や60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。